

2018 年度
事業計画書
予 算 書



ケニア シロアムの園の母子


JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 新年度の抱負	1
2. 中期計画における位置付け	2
3. 海外諸活動	3
3-1 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	3
(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー	4
(3) 短期	4
3-2 奨学金支援	4
3-3 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	9
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト カンボジア	9
(2) シロアムプロジェクト ケニア	9
3-4 災害救援復興支援	10
4. 国内諸活動	10
4-1 国際保健人材育成	10
4-2 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動	11
4-3 マーケティング	13
5. 運営体制	15
5-1 社員総会	16
5-2 理事会	16
5-3 委員会	16
5-4 事務局	16
6. 予算書	17
収支予算書	17
収支予算書内訳表	20

1. 新年度の抱負

平和を創り出す JOCS の役割

＜会長 畑野研太郎＞

会長の重責をお引き受けしてから2年間の総会資料では、常に「平和」を創り出すことが私たちに与えられた使命であると述べてきました。その平和は、戦いが無いだけではなく、極端な貧困や差別・偏見が無く、「みんなで生きる」ことが実現される世界であると。

それでは、私たちの JOCS は、どのようにしてそうした平和を創り出せばいいのでしょうか。その道をさらに真剣に祈り求めつつ進むことが必要です。今年度は、新しい5ヵ年計画が始まる年です。今までの5ヵ年計画を振り返ってみますと、その歩みは二つの言葉に要約されると思います。つまり「活動の安定性を増す＝ワーカー派遣・奨学金支援・協働プロジェクトの成長という活動の多様化」と、「JOCS の継続性を高める」と言うことです。この内容は次の5ヵ年計画にも引き継がれていきます。皆様のご支援と上からのお恵みによって、2015年度・2016年度は、赤字幅も縮小しました。10年先に JOCS が経済的に頓挫する可能性も小さくすることができました。これからもこの努力は続けていかななくてはなりません。しかし、新しい5ヵ年計画には、JOCS の反攻の始まりを盛り込みたいものと思っています。

JOCS のワーカーたちは、日本が生んだ宝石であると思います。何よりも小さくされた人々と、自分を小さくすることによって「みんなで生きる」ことを大切に、実践しているからです。

JOCS の奨学生たちは、小さくされた人々と生きる方々から選ばれており、事務局の努力によって、より近い関係を築けた人々となりました。この方々は、もともと現地に生きる人々ですが、ある意味では JOCS のワーカーであるといってもよい人たちです。

JOCS の「協働プロジェクト」は、まだ生まれて8年が過ぎたにすぎませんが、ようやくよちよち歩きから脱しようとしています。JOCS が生まれた頃と違い、現地の人々の能力の向上を受けて、共に歩むプロジェクトとしてユニークさが見えてくるようになりました。

これらの働きの質と量をさらに向上すること、そこでの出会いを積み重ねること、それらが、私たち JOCS が「平和」を創り出す方法です。

もう一つ願っていることがあります。それは、これらの与えられた出会いの物語を紡ぎだすと言うことです。今まで、私たちは「右手のした良いことも左手に知らせてはいけない」という聖書の教えに従ってきました。自分の行為を誇るためにそうしてはいけないことは本当です。しかし、出会いの物語を伝えるということは、「平和」のメッセージを皆で共有することです。それは平和を創り出す働きそのものです。もっと積極的に、人々の間にある「平和」を共有してゆく歩みを強めていく年度としたいものです。

2. 中期計画における位置付け

2018年度は5ヵ年計画2018（下記参照）の初年度にあたる。5ヵ年計画2018では、「取り残された一人ひとりを探し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」というビジョンの下、持続的
事業実施のために、新入会員数増加と寄付金収入増加を目指す。また海外諸事業においては、
海外派遣者を毎年新規発掘すること、そして各事業の成果目標を確実に達成することを目指している。

5ヵ年計画2018

2022年のビジョン：

取り残された一人ひとりを探し、苦悩と喜びを皆で分かち合う

あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、
九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで探し回らないだろうか（ルカ
による福音書15章4節）

経済発展が進む世界においては途上国と呼ばれる国々の中にもその恩恵を受ける人の
数が増えてきています。他方、先進国を含めて格差の問題は深刻化し、発展から取り残
される人々の問題を解決しない限り安定した持続的な人類の未来はないことが認識され
始めています。国連ミレニアム開発目標に続き、2015年から2030年までの新たな取り
組みとして設定された国連持続可能な開発目標(SDGs)は、「誰も取り残さない」をス
ローガンとして掲げています。

イエスは百匹の羊のうち、九十九匹より、なにより取り残された一匹を探し求めるこ
とに意味があると伝えています。

私たちJOCSは、これまで半世紀にわたり「医療を通じて愛を世界へ」のテーマの
下、貧しく弱くされた人たちと共にありたいと活動を続けています。来る5年間はあら
ためてこの迷い出て取り残された人々のことを念頭に置き、活動を展開していきたいと
考えています。取り残された人々は少数で見えにくい存在かもしれません。政府や大き
な援助団体は取り組みの対象としない存在かもしれません。その人自身が置かれた状況
に自らが気づいていない、あるいは変化を望むことすらあきらめているかもしれませ
ん。私たちは、その一人ひとりにしっかりと寄りそいたいと願っています。そこで、こ
の5年間は、組織として以下を重点的に取り組むこととします。

1. 困難の中にある取り残された一人ひとりを探し求め、よりよい変化をもたらしま
す。
2. そこで見出された一人ひとりと共に歩み、苦悩と喜びをより多くの人々と分かち
あいます。

* SDGs : Sustainable Development Goals

3. 海外諸活動

海外派遣者の継続派遣および新規採用、奨学金の効果的な実施のための制度づくり、協働プロジェクトの継続実施と新規案件の発掘・形成を行う。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュの岩本ワーカーは第6期の活動の継続を行う。また第6期派遣2回目の自記式アンケートを行う。バングラデシュの山内ワーカーの活動終了に向けてのまとめと帰国報告会を行う。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先：L'Arche Mymensingh (ラルシュ・マイメンシン)

赴任期間：2016年7月～2019年7月

活動概要：知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりを行っている。

- 1) ラルシュ・マイメンシンが、異なる宗教の者たちから成るコミュニティとして存在し続けることができるよう、トラスト文書の見直し及び必要な追加修正を施す。
- 2) コミュニティが所有する土地、建築物を国際ラルシュの傘下に置くよう、法的文書を作成する。
- 3) 理事会内の強化と一致を図る。
- 4) バングラデシュ国内の支援者の拡大と政府機関からの支援獲得を図る。特にダッカでの支援者拡大と社会福祉局からの支援獲得を図る。
- 5) ラルシュの家の新築に伴い、各施設間の移動距離が増える等の生活上の大幅な変化について、コミュニティのメンバーたちが漸次適応出来るよう適切な支援を施す。
- 6) コミュニティホールと作業所の移転計画を実施し、完了する。
- 7) 男性アシスタント不足に関する対応策（男性アシスタントに限りシフト制を導入する、高校生対象の奨学金制度を地方都市で施行する等）を漸次実施していく。
- 8) 国際ラルシュへ申請中である経験のある人材の派遣計画を推し進め、適任者を獲得し、シニア・アシスタントのリーダーシップ養成を特に強化する。
- 9) アシスタントの養成マニュアルを作成する。また国内外の専門家に支援を依頼し、アシスタントの養成プログラムを実施する。
- 10) 地域に暮らす障がいのあるメンバーたちの困難（親の加齢や他界に伴う家族の状況の変化等）に同伴し、可能な支援を継続する。
- 11) 電気自動車の運転手を更にもう1名採用する。
- 12) コミュニティ5カ年の覚え書きに沿い、メンバーたちが選択した2018年度優先事項を実施する。特に他団体との連携を拡げ、また第二のラルシュ設立の模索を継続する。
- 13) 国内外のボランティアの受け入れを行う。

3. 海外諸活動

(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー (理学療法士)

派遣先：PCC (Protibondhi Community Centre：障がい者コミュニティセンター)

赴任期間：2015年6月～2018年7月

活動概要：主に理学療法技術者のトレーニングを行っている。

1) PCC (Protibondhi Community Centre：障がい者コミュニティセンター、マイメンシン県)

- ・女性クラブの活動を支援する。
- ・基礎理学療法コース修了者レハナ氏を教育訓練によりスキルアップさせ、評価から治療が導けるようにする。

2) Kailakri Clinic (カイラクリ・クリニック、タンガイル県)

- ・月に一度の理学療法外来でスタッフのシルピー氏のスキルアップを図る。
- ・カイラクリの医療部門責任者のシュジット氏の理学療法の基礎トレーニングを実施する。(カイラクリ・クリニックで実習を通して山内ワーカーより最初に学んだのが同氏であるが、当時、修了書を発行しておらず、授業も練られた構成ではなかったため、基礎トレーニングを改めて実施し修了後に修了書を発行する)。

3) KPKS (Kalibari Protibondhi Koran Shomiti：カリバリ障がい者協会、マイメンシン県郊外)

- ・月に一度の理学療法外来を実施する。
- ・知的障がい児のデイケアを確立する。

(3) 短期

タンザニアにおける短期派遣のニーズに対応する。

[3-2] 奨学金支援

2017年度からの継続でインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの奨学生を支援し、2018年度の新規募集活動を行う。2016年度に策定された奨学金事業実施ガイドラインに沿って奨学金カウンターパートの精査、応募書類や報告書書式の改訂などを継続する。また、各国で実施した基礎調査の内容を奨学金事業の基礎資料としてまとめる。

(1) インドネシア

GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く5名を引き続き支援予定であ

る。故田村久弥元ワーカーや故塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先の病院もこれら GKST、GMIM、ICAHS 傘下の保健医療施設である。

(2) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、The LMN アナンダバン病院、UMN、タンセン看護学校およびその関連病院で働く保健医療従事者 7 名を継続して支援する予定である。

(3) バングラデシュ

支援先は 2016 年度採用のディナジプール県 St. Vincent Hospital の看護師(シスター) 2 名に加え、2017 年度採用のカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト(通称カイラクリ・クリニック)の準医療従事者(パラメディック) 1 名を予定している。カイラクリ・クリニックは乾真理子元ワーカーの派遣先である。

いずれの奨学生も所属先施設で働きながら、パートタイムでの就学である。

(4) ウガンダ

2018 年度は、UPMB 傘下の医療従事者 8 名を支援するが、いずれも首都から離れた交通の便の悪い遠隔地の病院・診療所に勤務するスタッフで、医師、正看護・助産師、臨床検査技師を目指している。うち 1 名は 2012 年度から支援してきた医学生で、2018 年に卒業予定である。なお UPMB はウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステの 3 教派が連携し、277 医療施設を統括するネットワーク組織である。

(5) タンザニア

清水範子元ワーカー、倉辻忠俊元ワーカーおよび弓野綾ワーカーの派遣先であるタボラ大司教区保健事務所(TAHO)傘下にある保健医療施設で働く 10 名を継続して支援する。

TAHO 傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフも多く、看護・助産師、臨床検査技師など基礎的な分野での研修を希望する人が多い。

TAHO では、診療所からヘルスセンターへ格上げとなる施設、またはヘルスセンターから病院に格上げになる施設へ優先的にスタッフを配置し、次に遠隔地の診療所を優先させる計画を持っている。JOCS では TAHO の計画を尊重しながら支援を行う。

2018 年度中に現地を訪問し、モニタリング(現地調査)を実施する予定である。

3. 海外諸活動

略語一覧

- * GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)
- * GMIM : Geredja Masehi Indjili Minahasa (ミナハサ福音教会)
- * ICAHS : Indonesia Christian Association for Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)
- * HDCS : Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系 NGO)
- * TLMN : The Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO)
- * UMN : United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)
- * UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
- * TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

インドネシア

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
会計スタッフ	女	24	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年6月 ~ 2020年5月
データ管理、医療記録担当者	男	19	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2017年7月 ~ 2020年7月
看護師、治療室主任	女	28	GMIM Kalooran Amurang Hospital	看護学	2017年9月 ~ 2019年9月
看護師長	女	44	ICAHS Emmanuel Hospital Klampok	看護学	2017年8月 ~ 2019年8月
看護師長	女	35	ICAHS Rido Galih Hospital	看護学	2018年1月 ~ 2021年1月

ネパール

診療放射線技師助手	男	44	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	放射線診断学	2016年10月 ~ 2019年10月
看護師・助産専門技能者	女	32	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2017年6月 ~ 2020年6月
理学療法士助手	女	30	The LMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年8月 ~ 2021年2月
看護師	女	28	The LMN Anandaban Hospital	看護学	2016年10月 ~ 2019年10月
医師	男	40	The LMN Anandaban Hospital	医学	2017年4月 ~ 2020年4月
臨床検査技師助手	男	29	UMN Hospital Tansen	臨床検査	2016年10月 ~ 2019年10月
准看護・助産師	女	38	UMN Hospital Tansen	看護学	2016年10月 ~ 2019年10月

バングラデシュ

パラメディック	男	24	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2018年1月 ~ 2020年12月
看護師	女	34	St.Vincent Hospital	看護学	2016年7月 ~ 2018年7月
看護師	女	32	St.Vincent Hospital	看護学	2016年7月 ~ 2018年7月

ウガンダ

看護助手	女	31	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2017年11月 ~ 2020年5月
検査助手	男	32	UPMB Diocese of Northern Uganda	臨床検査	2015年8月 ~ 2018年7月
清掃員	女	30	UPMB Goli Health Centre	助産学	2017年11月 ~ 2020年5月
診療所責任者	男	32	UPMB Kei Health Centre, Here is life	臨床医学・公衆衛生	2012年9月 ~ 2018年6月
検査助手	男	30	UPMB Kiwoko Hospital	臨床検査	2015年8月 ~ 2018年8月
准看護師	男	35	UPMB South Rwenzori Diocese	臨床医学・公衆衛生	2015年5月 ~ 2018年5月
准看護師	女	29	UPMB South Rwenzori Diocese	助産学	2017年5月 ~ 2018年11月
准看護師	女	33	UPMB Wii Anaka HC/II, Diocese of Northern Uganda	看護学	2017年5月 ~ 2018年11月

タンザニア

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
医師補	女	40	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2017年10月 ～ 2022年10月
医療助手	男	23	TAHO Kipalapala Dispensary	臨床検査	2017年4月 ～ 2019年4月
医療助手	女	29	TAHO Ndala Hospital	放射線診断学	2015年9月 ～ 2018年9月
シスター、病院管理 責任者	女	40	TAHO Ndala Hospital	病院運営	2017年10月 ～ 2022年9月
医師補	男	31	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2014年10月 ～ 2019年10月
清掃員	男	21	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2016年6月 ～ 2019年6月
看護主任	女	35	TAHO St. Ann's Mission Hospital	麻酔学	2018年1月 ～ 2018年10月
医療助手	男	23	TAHO St. John Paul II Hospital	看護学	2015年11月 ～ 2018年11月
医療助手	男	23	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2016年10月 ～ 2019年10月
医療助手	男	23	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2017年4月 ～ 2018年4月

* 職業欄の職務・職種は、奨学金申請時点のもの

[3-3]協働プロジェクト(プロジェクト・りとる) (Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

カンボジアの SALT プロジェクトとケニアのシロアムプロジェクトを継続実施する。タンザニアでは新規協働プロジェクト案件の形成調査と業務調整をする。

(1) SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey=次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国	: カンボジア
活動地域	: バッタバン州
プロジェクト期間	: 2014年10月～2019年9月30日 (5年間)
協力団体	: バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者	: バッタバン司教区内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標	: 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

第4年次(2017年9月～2018年9月)も半期が終わり、2018年10月からはプロジェクトの最終年次が始まる。第3年次までに小学校13校、中学校5校で健康教育を実施しており、これを踏まえて、第4年次は小学校12校(うち新規3校)、中学校5校(うち新規1校)を対象に活動を継続していく。また健康教育のインパクトを把握するため、これまで各校2名程、授業を受けた子どもの家庭を訪問し、様子を確認してきており、今後も継続して受益者からの聞き取りを行っていく。

またプロジェクト開始時から第3年次の半ばまで事業管理を担ってきた協力団体の担当者が2017年に離任して以降、活動全体を俯瞰した事業管理が難しくなっているため、実施体制の強化をバッタンバン司教区ヘルスセンターの責任者に申し入れるとともに、健康教育を担う現場スタッフ達を励まし、育成していく。

年に2回のモニタリングでは、プロジェクト終了時期を見据え、出口戦略を見極める。

(2) シロアムプロジェクト

対象国	: ケニア
活動地域	: キアンブ地方行政区 インデンデル地区
プロジェクト期間	: 2016年4月1日～2021年3月31日 (5年間)
協力団体	: コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者	: シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標	: シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

4. 国内諸活動

シロアムの園との 5 年間の協働期間の中間年を迎える。シロアムの園では、施設での療育活動に加え、今後はコミュニティでの療育活動の展開を視野に入れた準備に着手することが計画されている。手狭になってきた施設内での活動をコミュニティ（地域の学校や教会、既存施設等）に広げることで、より多くの障がい児にサービスを提供するとともに、障がい児療育に対する理解を深めてもらい、地域の人々と連携していく試みとなる。今年度は、このために必要な実施体制の強化、特に人材の育成・能力強化に力を入れる。具体的には、施設内でのクラス活動の充実や療法士の能力強化を継続しながら、これまでに作り上げてきたカリキュラムや教材をコミュニティでも使える形に改訂する作業やコミュニティとの連携強化を行っていく。準備が整えば、年度内にコミュニティでの療育活動を開始する。

今年度も療育支援の専門家を短期派遣し、また療法士の能力強化のためにバングラデシュ山内章子ワーカーの 3 度目の派遣を予定している。年に 2 回の実施を予定しているモニタリング（現地調査）では、中間段階での成果を把握し、残る期間の活動予定を協議する。

【3－4】災害救援復興支援

災害救援の支援要請を受けた時に、制度の範囲内で迅速に対応を行う。

4. 国内諸活動

5 カ年計画 2018 にもとづき、新規海外派遣者を発掘・育成する。また 5 カ年計画 2018 の最初の年にあたり、前 5 カ年計画で積み残された課題を解決していく。特に広報とマーケティングにはさらに注力する。国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動においても JOCS の認知度を高め、参加者増加につなげていくことができるように活動する。

【4－1】国際保健人材育成

2018 年度も将来国際保健医療協力の分野で働きたいと思っている学生及び現職の保健医療従事者を対象とした国際保健医療勉強会、フィールドセミナーを実施する。スタディーツアーは実施しないが、ワーカー志願者に対する説明会の開催及び個別対応を行う。

（1）国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、2018 年度も東京で 4 回の

勉強会を開催する。また従来どおり、勉強会後にはワーカー志願者向け説明会を実施し、ワーカーの発掘・育成に努める。

(2) フィールドセミナー

国際保健医療協力活動に携わりたいことを希望する人を対象に、国内の現場で活動する方々から、弱くされた人々とともに生きる姿勢を学ぶことを目的として実施する。開催場所は、横浜市寿地区やその他の草の根の働きが行われているフィールドを検討する。

(3) JOCS 若者の会（仮称）

将来国際保健医療協力の分野で働きたいと思っている医療従事者、また、その思いを応援したい会員が共に経験を分かち合い、国際保健医療協力について学ぶ機会となる宿泊型の集まりを持つ。

【4-2】国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な環境におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、以下の活動を行う。

(1) 使用済み切手運動

2018 年度も前年度に引き続き、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動を行い、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集もあわせて行っていく。

1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウヒロシマ 日時未定
高知スタンプショウ 日時未定

2) 書き損じハガキキャンペーン

日本国内の教会向けの DM サービスを利用し、全国 8,000 の教会にチラシを配布する。特に書き損じハガキの寄付を募るキャンペーンを実施する(2018 年 11 月)。

3) 送料負担キャンペーン

企業や団体が取り組みやすくするため、送付合計が 5 キロ以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキの送付に関し、送料(ゆうパック利用)を負担するキャンペーンを実施する (2018 年 6 月～2018 年 11 月)。

4. 国内諸活動

(2) ワーカー活動報告会

任期を終えてタンザニアから帰国する弓野綾ワーカーの活動報告会と第 3 期を終えてバングラデシュから帰国する山内章子ワーカーの活動報告会を開催する予定である。これまで支援いただいていた方々に対する感謝の報告とともに、新規支援者の理解と賛同を得ることを目的とし、教会や友の会、その他支援団体を通じて活動報告会の開催を広く呼び掛け、全国各地で実施する。

(3) 地区 JOCS 活動支援

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・四国高知各地区において、支援者グループによる使用済み切手整理や地域のイベント出展、チャリティコンサートなどの催し物が実施される予定である。各地区の催し物への帰国ワーカー派遣、報告会開催等の支援を行う。

(4) 関西 JOCS バザー

ボランティアによるバザー委員会が大阪聖パウロ教会を会場に、第 24 回目のバザーを 5 月 12 日（土）に開催する。作業や準備の場所の提供、その他側面からの支援として関西事務局が関わる。「切手を持ってバザーに行こう！」をキャッチコピーに、多くの方々にバザーに来ていただき、JOCS の活動を広報し、使用済み切手運動を広めることに努める。

(5) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会、教会等、各団体に講師を派遣する。活動全般の話に関しては、誰を派遣しても、これまでの講師派遣の実績に基づいて作成されたスライドに従って、統一された内容を話すことができるように準備をする。保健医療系の学校から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に、講師を依頼する。小中学校からの依頼に対しては、子ども向けのプログラムを用意し、可能な限り、参加型のワークショップを提供する。

(6) 事務局見学受け入れ

学校、幼稚園、社会福祉協議会、教会、地域や企業のボランティアグループ等の希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や海外保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

(7) 視聴覚資料

希望者に DVD、写真パネルの貸し出しを行う。特に、2017 年度に作成したタンザニア

での活動を紹介する DVD「アサンテサーナ タンザニアにまかれた種」は、海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクト）の活動がわかりやすくまとめられているため、ホームページでも積極的に広報する。

(8) 関西 JOCS のつどい

関西事務局が開所 50 周年を迎えるにあたり、記念礼拝とコンサートを行う。

長く活動してこられたことに対する感謝を伝えると共に、これからも変わらず支援していただけるような道筋を作る。また新規に支援してくださる人を募る。

日時：2018 年 11 月 17 日（土）午後 2 時～4 時

場所：日本キリスト教団 浪花教会

イベント内容：記念礼拝

パイプオルガンコンサート

(9) 映画会

「みんなで生きる」平和な社会の実現について考えるテーマを扱った映画を上映し、活動への支援を募る機会とする。

(10) 関西事務局オープンサタデー

「一緒に考え、参加して発言する」勉強会を開催する。毎回多彩な講師を迎えて開催することで、平日 JOCS の活動に関わっていただけない会員、新規の方に実際に事務局に来ていただき、活動に関わっていただくきっかけを提供する場とする。

(11) ネットワーク活動

国際協力 NGO センター (JANIC)、関西 NGO 協議会、障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)、カンボジア市民フォーラム、公益法人 NGO 連絡会のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動を行っていく。

[4-3] マーケティング

これまでは会員の減少に歯止めをかけることを目標として掲げていたが、新たな 5 ヵ年計画では上昇に転じさせることを目指す。また寄付収入の増加も目指す。そのためにアプローチする主な対象は今後もクリスチャンおよびキリスト教共感層とする。

JOCS の認知度を向上させるための各種広報活動を行いつつ、既存の支援者とのコミュニケーションを通じて継続的な支援につなげる。

4. 国内諸活動

(1) 会報誌「みんなで生きる」の企画・編集

支援者への説明責任を果たし、活動への理解と共感を得るために、年 6 回（偶数月 10 日）発行する。

海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクト）の活動報告では、特に現地の方の声を掲載する。そのほか、国内活動、地区 JOCS の活動なども掲載する。

(2) 子ども向け出版物

2018 年は、例年発行していた「みんなで生きる」増刊号としての子ども号は発行せず、その代替として子ども向け出版物を別に作成する。

(3) 年次報告書

支援者に前年度一年間の活動全般を要約して報告し、年間の活動進捗を確認してもらうとともに、今後の支援継続の動機づけとしてもらうことを目指す。過去の年次報告書と並べて比べることで、活動の経年の変化がわかるような工夫をする。また、同時に活動の対象となっている現地の人々が身近に感じられるような記事も掲載する。

6 月に A4 版冊子形態で発行し、会報誌・夏期募金趣意書とともに郵送する。

(4) ホームページ

2017 年度に引き続き、ホームページのリニューアル作業を行う。閲覧者が求める情報を簡潔にわかりやすく提供できるページ構成にし、かつ親しみやすいデザインと切手運動での検索上位も目指す。

(5) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動である、プレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用し、プレスリリースを定期的に行う。そのための事務局内体制を整える。

(6) 雑誌広告

キリスト教共感層に対して JOCS の認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を得るために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』に 1 ページ広告を掲載する。JOCS の活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした「読み物」の広告とする。ストーリーの内容は、現地モニタリングなどで得た情報をもとにした新鮮味のあるものとする。

(7) 書店広告

いのちのことば社直営のキリスト教書店（全国 8 店舗と通信販売）で、ポスター掲示と

購入者へのチラシ配布による広報、および年数回の対面ファンドレイジングを行う。それにより、JOCSの認知度を上げるとともに新規支援者拡大を目指す。

(8) 教会訪問

前年度に引き続き、キリスト教共感層をターゲットにした職員による教会での活動報告会に力を注ぐ。またワーカー2名の活動報告会もこれまで活動報告会を実施したことのない教会を中心にいき、新規支援者の拡大を目指す。

(9) 継続支援促進

一度寄付をくださった方に継続して活動を支える会員への移行を促すために、例年通り、夏期募金、冬期募金を送付する際の入会のお願いの手書きメッセージ書きや、前年度の映画会などのイベント来場者へのフォローを実施する。

会員の継続率を維持するために、引き続き「会費納入のお願い」、「領収証」の送付時に、より細やかなコミュニケーションに努める。

(10) 募金

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書と同封して支援者に送付する。

冬期募金については、趣意書を、支援者と、直近の1年以内に使用済み切手を初めて寄付くださった人に送付する。趣意書では、一人の人物を取り上げ、JOCSの活動でその人物や地域にどのような変化が起きたのかを伝えられるものとする。また、受け取った人が開けたくならないような封筒で送付する。

(11) 遺贈

役員改選に伴い、遺贈や相続財産の寄付に関心のある方向けのパンフレットを改定する。高齢層の読者が多い雑誌への広告掲載、チラシ作成等で、遺贈に対する理解を高めていく。あわせて理事・職員が、支援者からの遺贈に関する相談に応じられるよう、法務・税務の知識習得に取り組む。

5. 運営体制

公益法人として、JOCSの5ヵ年計画2018の目標を達成できる体制をつくる。また2018年度に改選される新理事会の方針に従い理事会の開催、委員会への諮問を行う。

5. 運営体制

[5-1] 社員総会

第57回定時社員総会を、2018年6月9日（土）に日本基督教団信濃町教会にて開催する。

[5-2] 理事会

定例理事会は7回の開催を予定している。2018年6月9日（土）社員総会までの理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、久保礼子、
土居弘幸、名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆

監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

2018年6月～2020年6月の理事候補者10名及び監事候補者2名の選任を6月9日の社員総会に諮る。

[5-3] 委員会

2016年6月に組織された各委員会は、理事会の諮問を受け、実務的課題から戦略課題を検討した。2018年6月9日の第57回定時社員総会の終結をもってその任期を終える。本総会で選出される理事による新理事会より、必要に応じてまた諮問を行っていく。

[5-4] 事務局

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子、河井敦、小池宏美、高橋淳子、服部由起、松浦由佳子

関西事務局 渋江理香、石野祥子、斎藤桂

（育児休職：森田真実子）